

地域おこし協力隊とは？

人口減少や高齢化などが進む地方で、地域外の人を受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その地域への定住・定着を図ること、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

芦屋町地域おこし協力隊 入江 俊充さんのコラム

こんにちは、初回のコラムを「広報あしや 7月号」に掲載してもらってから、町の皆さんにたくさんお声掛けいただくようになりました。ありがとうございました。
第1回目は私のことを話しましたので、今回から、芦屋町に移住してからのことをお伝えします！

いりえ としみつ
入江 俊充 (33歳)

宮城県仙台生まれ兵庫県神戸市出身
東京と大阪で長く働いていました。
WEBを活用した情報発信が得意。
趣味は釣りと最近始めたゴルフ！



■赤しその収穫

6月ごろから町の赤しそ農家さんが大忙しになります。

収穫直前になると農地一面に赤しそが広がっていて、鮮やかな紫の景色に圧倒されてしまいました。

私も実際に収穫をさせてもらいましたが、いざやってみると枝を同じ長さにそろえながら切っていくのが難しく、収穫の奥深さを知ることができました。

町内で生産された赤しそは「芳香しそ」としてブランド化されていて、収穫後には食品や酒、化粧品などに使われています。実際に、町内の店を訪問すると、地元農家さんの赤しそを使用した商品を取り扱っている店が多く、ほかの市区町村と比較しても発色、香りが全然違うとお墨付きでした！

これからも町内だけでなく、町外の人にも芦屋産「芳香しそ」を知ってもらいたいですね。

また次回の収穫は来年になりますが、私も積極的にPRしていきたいと思います。



△収穫した赤しそをきれいにそろえて束にしています



△たっぷりの水を使って、ていねいに赤しそを洗浄中！



△赤しそを使った製品は、町内で買えます。がんばれ芦屋町ふるさと応援寄附金(ふるさと納税)の返礼品にもなっています！

■KBC九州朝日放送「ふるさとWish」

7月5日～11日の1週間、KBC地域共創プロジェクトふるさとWishで芦屋町を特集したさまざまな番組が放送されました。

特集の告知用ポスターは、漁業者の中西政次さんと芦屋釜の里・工房業務従事員の堀内快さんの2人に協力していただき、夏井ヶ浜はまゆう公園で撮影が行われました。



△できあがったポスター

町内でもいろいろな店や施設に掲示されていたので、目にした人も多いのではないのでしょうか。

「走る」をテーマにした特集のCMには、今年新しく船頭町にOPENしたケーキ屋さん「patisserie プレザン」の藤井結さんと私が、町内のいろいろなところをダッシュしてPRさせていただきました！実際に放映されたCMは、芦屋町の観光情報サイト内「Ashiya Town Tube」に投稿しています。ぜひご覧ください！

日々の活動はInstagramで発信していますので、フォローして活動を応援してもらえると嬉しいです！



△役場前でCM撮影。この後、走りました！



▷問い合わせ 地方創生推進係 (☎223局3571)

芦屋歴史紀行

その三四

探求心と技術者の魂 矢野倅一展へ向けて②

前号では世界と日本の自動車時代幕開けの話をしました。今号からは芦屋町で生まれた自動車時代の先覚者、矢野倅一さんの生涯を辿ってみます。

矢野倅一さんは、明治25（1892）年、芦屋町市場の造り酒屋「大福屋」の長男として生まれました。機械に興味を持ち始めたのは小学校に通う頃からだった矢野少年。自宅近くで叔父が経営していた精米所によく出かけては、飽きることなくガソリン発動機を眺めていたそうです。



△福岡工業学校機械科2年生の矢野倅一少年

空への憧れ

その後、森鷗外も称賛していた天才的発明家、矢頭良一氏に影響を受け、飛行機への憧れを抱くようになります。芦屋尋常高等小学校を明治41（1908）年に卒業。家事手伝いのため一年遅れて、念願の福岡県立福岡工業学校機械科に入学しました。芦屋を出て同校の寄宿舎に入寮。工業学校に入学後は矢頭氏と直接の面談が叶い感動した、との本人メモが残されています。倅一少年は懸命に勉強し、優等生の中に数えられるようになりました。一年後に寄宿舎を出て、福岡市内に下宿。模型飛行機の制作に夢中だったようです。

明治45（1912）年4月、矢野青年が福岡工業学校4年生のとき福岡日日新聞社（西日本新聞社の前身）主催の模型飛行機大会が、福岡市の城内練兵場で開催されました。矢野青年はこの大会に合わせ、ようやく完成させた自作の小型エンジンを搭載した模型飛行機で参加しました。審判長は横地陸軍大佐、審判が森永海軍大佐、日野陸軍少佐（日本で初めて飛行機を操縦した人物）でした。



△福岡工業学校機械科4年生の時に作った模型飛行機

アメリカのライト兄弟が初めて飛行に成功した明治35（1902）年から10年目。徳川大尉と日野大尉の日本初飛行から2年目で、空への熱い憧れが世に溢れた時代でした。

参加者多数でしたが、ゴム動力のプロペラ機ばかりで、エンジン搭載の模型飛行機で参加したのは矢野青年だけでした。異彩を放ったエンジン機でしたが、矢野青年の手を離れた途端、草むらに落下してしまいました。しかし、大会の表彰式で矢野青年は最優秀の甲賞を受賞しました。自作の小型エンジンを搭載したことへの努力・技術力・将来性が高く評価されたのです。新聞でも報道され矢野青年の名は世に知れ渡りましたが、奢ることなくこつこつとエンジンの制作と研究に取り組み続けました。

矢野倅一展は10月27日（日）より開催予定です。
（芦屋歴史の里）

編集後記

▼ポートルース芦屋の場内にあるモーヴィ芦屋の記事を6ページに掲載しています。遊んでいる子どもたちの表情から最高に楽しい時間を過ごしていることが伝わります。何といっても全国初という高さ8・4mもある巨大な球体の遊具やハーネス（安全ベルトの一種）をつける本格的なボールドリングウォールなど伝えきれないほどの遊具がそろっていました。ボールドリングは、スポーツクライミングとして東京2020五輪の新競技。あしやっ子がここで練習して未来の五輪選手になったらいいですね。子どもも大人も全身を使って遊べるので体力増強によさそうです。▼また、リニューアルした、あしや夢リアホールでヴィクトル・ユーゴー原作「ノートルダム物語」の劇団シヨマンシップオリジナル版が公演され観劇してきました。長年、文化庁巡回公演事業に採択されているだけあって、現代社会に求められる多様性が表現されており、感動をよぶスタートとなりました。ホールにはAFC（音場支援システム）が入っていて、音楽の反響効果もすばらしいので今後開催されるさまざまな公演が楽しみです。ますますスポーツや文化に親しめる町になりそうです。

（鍛守）